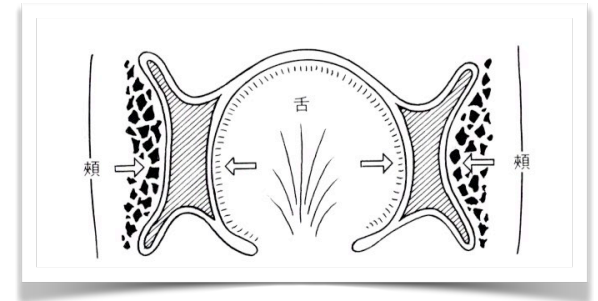


片側性咬合平衡

平衡側は離開状態となり，義歯は作業側を軸として転覆力が働くようになる。そのため，片側で噛んでも義歯が転覆しないよう力学的に安定する顎堤上に臼歯を排列する必要がある。

3. ニュートラルゾーン法

口腔の諸機能時に頬・唇による内方への圧と舌による外方への圧とによって義歯に加わる荷重が均衡化されると想定される領域(ニュートラルゾーン)に人工歯を排列するとともに，義歯床フレンジ(床翼)形態を一致させれば，義歯床は頬側と舌側から均等な外圧を受け，義歯が安定することになる。



4. 無咬頭歯の排列

無咬頭歯を用いて，下顎臼歯を顎堤頂から舌側寄りに排列に排列し，片側性の咬合平衡を得る。また，臼歯をアンチモンソンカーブで排列することで，咬合力は顎堤の舌側寄りを通り，片側性の咬合平衡が得られることになる。

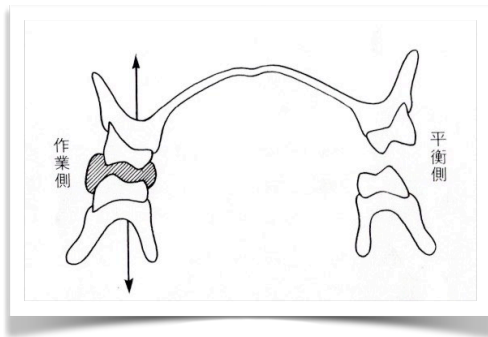


図9

